

探求の共同体支援のための学習環境デザイン ——オンライン学会での試行——

鈴木 真保*, 鈴木 克明***, 戸田 真志***, 合田 美子***

Designing a Learning Environment for Supporting Community of Inquiry —An Attempt at an Online Academic Conference—

Maho SUZUKI*, Katsuaki SUZUKI***, Masashi TODA***, Yoshiko GODA***

1. はじめに

COVID-19 対応で多くの学会などがオンライン化された。学会などは、講演・発表そのものによるフォーマルな学びと、休憩時間などのインフォーマルな学びによる複合的学びの場である。だが、オンライン化でインフォーマルな学びの実現が難化した。オンライン学会参加者アンケートを基にした参加者同士が自由に利用できるフリースペースの構築の必要性の主張⁽¹⁾、オンライン学会で懇親会などのインフォーマルな交流がないゆえに学会コミュニティの良さが活かしにくいと問題提起し、オンライン交流プラットフォームを活用した懇親会の実施⁽²⁾、バーチャル空間を活用した学会の開催など⁽³⁾、学会設計に関する試みもなされている。

学会参加経験が乏しい大学院生などには学会はハードルが高いが、ゼミの先輩・後輩など仲間とのインフォーマルなコミュニケーションにより、安心して参加し、学んだ内容を相互作用の中で深化させることも見込める。森らは大学院生の研究生活において学会などでの先輩など指導教員以外とのインフォーマルで偶発的な交流が有用である可能性を示唆し、対応する場の設計の必要性を述べている⁽⁴⁾。その有用性は、社会構成主義に基づく「探求の共同体（Community of Inquiry: CoI）」の観点からも想起される。CoI はオンライン上の学習コミュニティの有効性に注目したフレームワークで、学びは本質として孤立して存在せず相互作用の中で成立するもので、学びの場は教授的存在感、社会的

存在感、認知的存在感が相互に絡み合い成り立つとする⁽⁵⁾。社会的存在感とは自己を投影し、個人的で目的のある関係を築く能力のことであり、認知的存在感は CoI の中で協調とリフレクションにより探究し、構成し、解決し、理解を確かなものにしていくことであり、教授的存在感は学習者の満足、知覚された学び、コミュニティ意識のためには重要な要素である⁽⁶⁾。CoI には、フレームワークとして研修設計のチェックができる 34 指標が準備されている⁽⁷⁾。本研究では本指標を参照し、オンライン学会と並行するインフォーマルな場として、オンライン集団視聴環境を設計、評価し、参加者の CoI の認識はどのようになるのか、指導教員以外からの支援や学びのヒントを得る場となりえるのかを検討する。

2. オンライン集団視聴環境の概要

2.1 環境構築のためのシステム選定と方策

オンライン集団視聴環境は、おもに三つから成る。①コミュニケーションスペース Gather（図 1）、②コラボレーションツール Miro（図 2）、③これらのツールの利用法ほか、参加者に周知したい内容を記載した「オンライン集団視聴参加のしおり（以下、しおり）」（PDF）（図 3）である。参加者はしおりを閲覧後、Gather と Miro にログインする。

2.1.1 Gather

オンライン集団視聴環境の中心的システムとして Gather を採用した。ブラウザで動作するオンラインコミュニ

* 熊本大学大学院社会文化科学教育部教授システム学専攻（Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University）

** 熊本大学教授システム学研究センター（Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University）

受付日：2022 年 8 月 8 日；再受付日：2022 年 11 月 5 日；採録日：2022 年 12 月 2 日